

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	古山 京子	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	フロストバーグ州立大学		
国・地域	アメリカ		
派遣期間	2025 年 1 月 ~	2025 年 5 月	

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Introduction to Critical Gender	ジェンダーについて批判的に性別が社会・文化・歴史の中でどのように作られ、扱われているかを学ぶ。女性・男性・LGBTQ+の人々の立場や権利、フェミニズムやジェンダー平等についても扱う。
World Regional Geography	世界の各地域(アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカなど)の地理、文化、経済、環境問題を通して国や地域の違いに注目し、人々の暮らしや地域の特徴を比較する授業
Introduction to International Studies	国と国との関係、国際機関、世界の問題(戦争、貧困、人権、環境など)について広く学び、国際的な視点で物事を考える力をつける授業
Animal Learning and Cognition	実験心理学や行動科学に基づいて、ヒトと動物の知性や行動を理解する授業
Introduction to Sociology	社会の仕組みや、人々の行動・集団・制度(家族、教育、宗教など)を科学的に分析する授業

留学レポート(1,500 字以上)

今回の留学では、多くの学びや出会いがありましたが、同時にいくつかの困難にも直面しました。中でも、出発前の事前準備と現地での言語の壁は特に大変だったこととして印象に残っています。

まず、事前準備についてです。ビザの申請は初めての経験で、どの書類が必要かを自分で調べなければならず、何度も間違えたり、必要な書類が揃わなかったりと、とても苦労しました。さらに、留学先の大学とのやり取りも自分で行う必要がありました。英語でのメールの書き方に悩みながら、質問をしたり書類を提出したりするのは、精神的にも大きな負担でした。

次に、現地での言語の壁も大きなチャレンジでした。授業が始まると、先生の話すスピードが非常に速く、内容を理解するのが難しかったです。また、クラスメートとのディスカッションにも苦労しました。相手の言っていることがすぐには理解できず、話の流れに乗ることができない自分に焦りを感じる日々が続きました。特に最初の数週間は、授業についていけないかととても不安でした。

しかし、そうした困難を乗り越える中で、楽しい経験や素晴らしい出会いもたくさんありました。特に、他の国から来ていた留学生たちと仲良くなれたことは、留学生活での大きな喜びの一つです。彼らと話すことで、それぞれの国の文化や考え方を知ることができ、世界には本当にさまざまな価値観や背景を持った人がいるのだと実感しました。食文化や休日の過ごし方、教育への考え方など、互いに教え合うことで、視野が広がったように感じました。授業にも数週間で慣れ、毎回の予習と課題に苦しみながらも乗り越えることができました。

また、アメリカの文化について深く知ることができたのも、貴重な経験でした。たとえば、キリスト教に関連するイベントをととても大切にする文化に触れる機会がありました。感謝祭やイースターなどは家族や友人と過ごす特別な

時間であり、その意味や過ごし方を現地の人々とともに体験することで、日本にはない価値観を学ぶことができました。また、黒人文化にも触れる機会があり、音楽や歴史、差別に関する話など、教科書では学べないリアルな話を聞くことができたことは非常に印象的でした。

さらに、日常生活を送る中で、自分が日本人としてどのように見られているかを意識する場面も多くありました。自分の発言や行動が、日本という国全体の印象につながるかもしれないという責任感を持つようになり、より丁寧に人と接するようになったと思います。また、困っているときに助けてくれる人が多く、人の優しさや温かさに触れることも多くありました。私は友人や大学職員、地域住人のサポートがなければ充実した留学生活を送れていなかったと思います。文化や価値観が異なっても、人と人のつながりの大切さは共通しているのだと感じました。

また、日本以外の国に住んだことで日本のすばらしさに改めて気づくこともできました。日本がこれまで築き上げてきた文化や技術、人間性がいかにすごいものか分かったことで、より日本と世界について興味が湧くようになりました。今後は、国際的な視野を持ちながら、自分のルーツである日本についてもより深く知り、それを世界に伝えられるような人になりたいと思います。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



大学近くの教会で、英語が第二言語である人向けの英語教室が開かれていたので毎週通いました。



英語教室の先生の家へ招待してもらい、アメリカのイースターの伝統的な食事をごちそうになりました。



冬の気温はマイナス20度を下回るときもあり、長崎とは全く異なる冬を体験しました。



週末は留学生と在校生で集まり、カードゲームなどをして遊びました。